

マテリアリティのKPIとその進捗 ー環境ー

 環境と共に	2030年 コミットメント	脱炭素社会をリードし次世代へつなぐ地球環境の創造 私たちは、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐため、再生可能エネルギーの調達拡大や、省エネルギーの徹底等に全社一丸となって取り組み、脱炭素社会の実現に貢献します。			
	背景と考え方	化石燃料への依存からの脱却を目指す脱炭素化が世界的な潮流となっていることを受け、JFRグループは、再生可能エネルギーの活用等による「脱炭素社会の実現」を重要課題として位置付けています。			
	指標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度KPI	2030年度KPI
	● Scope 1・2 温室効果ガス排出量	● 36.7%削減(2017年度比) (Scope1・2排出量122,812t-CO ₂)	● 43.5%削減(2017年度比) (Scope1・2排出量109,785t-CO ₂) ● ネットゼロ移行計画策定 ● SBTネットゼロ認定取得 ● EV充電スタンドの拡大(エンゼルパーク)	● 40%削減(2017年度比)	● 60%削減(2017年度比) ◎ 2050年ネットゼロ
	● 事業活動で使用する電力に占める再生可能エネルギー比率	● 20.3% 対前年10.0%増 (再エネ電力使用量62,156MWh)	● 33.6% 対前年13.3%増 (再エネ電力使用量102,676MWh)	● 40%	● 60%
脱炭素社会の 実現	● 創エネルギー	—	—	● 新電力事業会社との協業による 再生可能エネルギー自家発電の 導入	● 新電力事業会社との協業による 再生可能エネルギー自家発電・ 自家消費の拡大

 環境と共に	2030年 コミットメント	お取引先様とともに創造するサプライチェーン全体での脱炭素化の実現 私たちは、お取引先様とともに、環境に配慮した製品やサービスの調達等に取り組み、同時に、再生可能エネルギー化、省エネルギー化に取り組み、サプライチェーン全体での脱炭素社会の実現に貢献します。			
	背景と考え方	脱炭素社会の実現に向けて、企業は自社の事業活動だけでなく、サプライチェーン上の活動に伴う温室効果ガス排出量も把握・管理することが求められており、重要視されています。JFRグループは、お取引先様と協働し、Scope3排出量削減を目指しています。			
	指標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度KPI	2030年度KPI
	● Scope3温室効果ガス排出量	● 17.3%減(2017年度比) (Scope3排出量2,420,492t-CO ₂)	● 5.7%減(2017年度比) (Scope3排出量2,761,669 t-CO ₂) ● お取引先様説明会の実施 (4月開催、253社参加、大丸松坂屋百貨店)	● 10%削減(2017年度比)	● 40%削減を目指す (2017年度比) ◎ 2050年ネットゼロ
	サプライチェーン 全体の マネジメント				



環境と共に

サーキュラー・
エコノミーの
推進2030年
コミットメント

背景と考え方

サーキュラー・エコノミーの推進による未来に向けたサステナブルな地球環境と企業成長の実現

私たちは、お取引先様とお客様との協働により、新たな環境価値を生み出すための革新的なビジネスモデルを創造し、サーキュラー・エコノミーにおける競争優位性を獲得します。

大量生産、大量消費を前提とした従来型のリニア・エコノミーによる環境問題の深刻化が世界的に課題となる中、JFRグループは、2021年、資源や製品の価値を最大化する「サーキュラー・エコノミーの推進」を新たなマテリアリティの一つと位置づけました。

指標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度KPI	2030年度KPI
●廃棄物排出量 (食品廃棄物含む)	●30.0%削減(2019年度比)	●26.7%削減(2019年度比) ●AI需要予測による食品ロス削減実証実験 (大丸東京店) ●大阪市環境局の事業系廃棄物マネジメン トの優良表彰受賞(JFR情報センター)	●15%削減(2019年度比)	●50%削減(2019年度比)
●エコフによるリサイクル回収量	●累計1,101t (2021年度 265t)	●累計1,468t (2022年度 367t)	●累計1,500t	●累計3,000t
●リサイクル・リユース	●ギフトカタログの回収・リサイクルを開始	●食廃油から国産SAFの製造を目指す 「Fry to Fly Project」へ参画 (大丸松坂屋百貨店 2023年) ●端材を活用した大阪芸大サステナブル プロジェクト(J.フロント建装) ●コンタクトレンズケースの回収活動(JFR サービス)	●お取引先様とお客様との協働に よる使用済み製品のリサイクルや 再製品化の実現	●お取引先様とお客様との協働に よる使用済み製品のリサイクルや 再製品化の拡大
●シェアリング・サブスクリプション・アップサイクル等事業	●ファッションサブスクリプション事業 「アナザーアドレス」スタート	●「アナザーアドレス」メンズライン投入に よる事業拡大 (大丸松坂屋百貨店 2023年)	●お取引先様との協働による シェアリング・アップサイクル等 事業への新規参入	●お取引先様との協働による シェアリング・アップサイクル等 事業のシェア拡大